

- 北海道新十津川町では、乗合ワゴン、乗合タクシーやスクールバスなど多様な交通資源を最大限活用して、**運行形態やダイヤ、ルート**を再構築し、新しい交通体系での運行を令和4年4月から開始
- 利便性向上のために**乗継拠点の整備**や**わかりやすい運賃体系の導入**、**運行情報の提供**など効率的で利用しやすい公共交通サービスの確立、地域でまもり育てる公共交通の実現を目指す。

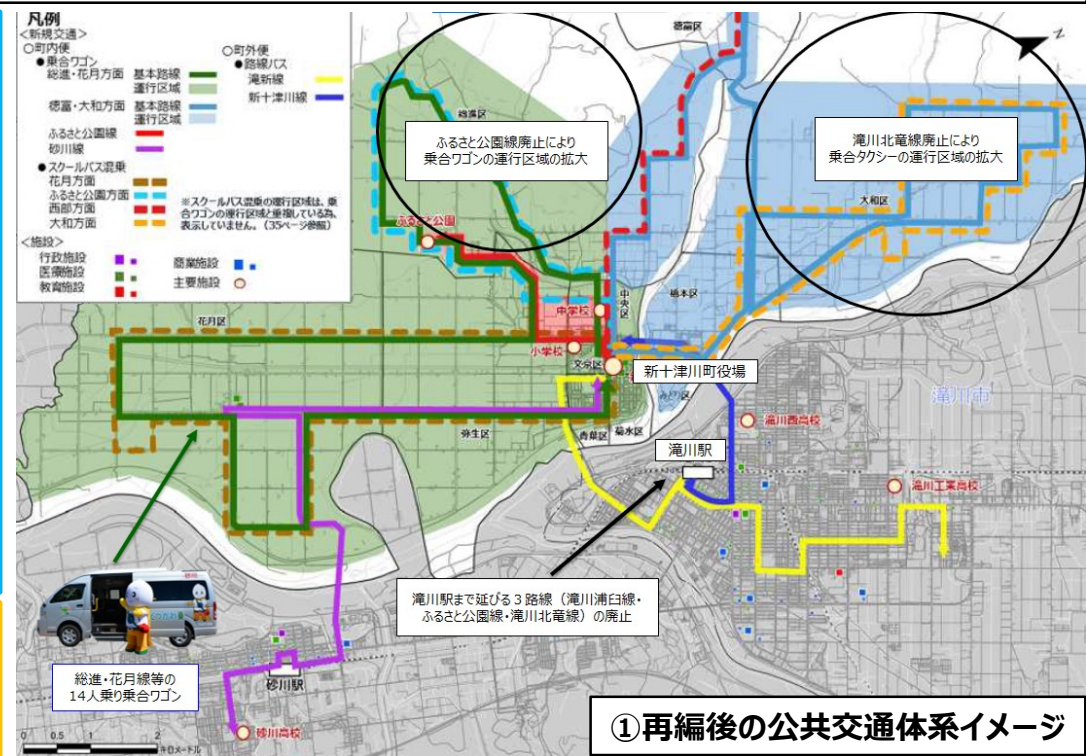
事業の内容

- ① 町内・町外移動を分けた持続可能な公共交通網の再編

町内を運行し町外への滝川駅まで結んでいる路線バス3路線（滝川浦臼線・ふるさと公園線・滝川北竜線）に替わって、町の中心部（役場庁舎）と滝川駅を結ぶ路線と、町内を運行する乗合ワゴン（デマンド交通）及びスクールバスの一般利用者混乗に再編を実施
- ② 役場庁舎を乗換拠点として快適な待合環境・空間を整備

役場庁舎に各交通の乗換拠点として待合所を設置。デジタルサイネージにより車両位置情報を確認可能
- ③ 乗り継ぎに配慮したダイヤ・運賃設定

町内交通と町外交通の乗継時間を考慮した運行ダイヤの設定、町内移動（乗合ワゴンまたはスクールバス）は乗車1回につき100円とするわかりやすい運賃体系を構築



① 再編後の公共交通体系イメージ

事業の効果

- ・町内移動のデマンド交通化による利用者利便性の向上

デマンド化により既存バス停より多くの乗降場を設置、路線バスよりも自宅から乗降場への距離を短くすることで利用者の利便性が向上。一部の便についてはドアtoドアとすることで特に高齢者の利便性が向上
- ・快適な待合環境・空間の形成

待合環境の整備、バスロケーションシステムの導入などにより乗り継ぎにおける快適性、利便性が向上
- ・町内移動が気軽にできるわかりやすい運賃体系により町民負担軽減

わかりやすい運賃体系とすることで町民の負担を軽減し、利用者の増加、満足度の向上を図る。



- ・作成自治体
新十津川町
- ・事業実施区域
新十津川町全域
- ・事業実施予定期間
令和4年度～令和8年度